

報告書抄録

ふりがな	からすまごさいせき・つだえこていいせき							
書名	烏丸崎遺跡・津田江湖底遺跡							
シリーズ名	琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	9							
編著者名	小竹森 直子 吉田 昌伸・植田 弥生・藤根 久・是枝 若菜・鈴木 茂・小山 修二・谷口 英嗣（以上、株式会社パレオ・ラボ）・柴田 徹（古環境研究所）・加藤 孝幸（アースサイエンス株式会社）・岡村 聡（北海道教育大学）・杉原 重夫・鈴木 尚史（以上、明治大学文化財研究所）							
編集機関	滋賀県教育委員会事務局文化財保護課 / 財団法人滋賀県文化財保護協会							
所在地	滋賀県大津市京町4丁目1番1号 / 滋賀県大津市瀬田南大萱町1732-2							
発行年月日	平成20年（2008年）3月							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コ ー ド		世界測地系		調査面積	調査期間	調査原因
		市町村	遺跡番号	北 緯	東 経			
からすまごさいせき 烏丸崎遺跡	くさつしよ おおしほ 草津市下物町 地先	25206	122	35度 4分15秒	135度56分10秒	40,320m ²	1982年度～ 1990年度	湖岸堤管理道路工事ほかに伴う事前調査
つだえこてい 津田江湖底遺跡	くさつしよ しほてん 草津市下寺町 地先	25206	118	35度 3分59秒	135度55分58秒	36,780m ²	1983年度～ 1991年度	湖岸堤管理道路工事ほかに伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物	特記事項		
烏丸崎遺跡	集落跡 墓跡	縄文時代～弥生時代		竪穴住居・方形周溝墓・土坑・墳砂跡	縄文土器・弥生土器・石器・木製品・玉作関連遺物	方形周溝墓周溝内から木偶が出土 木棺が残存する主体部有り		
津田江湖底遺跡	散布地	古墳時代～近世 縄文時代		溝・掘立柱建物・井戸 土坑・落込み・風倒木痕 遺物包含層	縄文土器・石器	木製品樹種同定		
要 約	<p>烏丸崎遺跡では、弥生時代前期の竪穴住居をはじめとする遺構と共に一括性の高い土器資料を得ることができた。弥生時代中期初頭には玉作工房跡が2～3棟存在していたことが明らかとなり、滋賀県内では出土例がほとんどない瑪瑙製の石針が多量に出土した。また、100基を超える弥生時代中期前葉から中葉の方形周溝墓を検出し、主体部構造・供献遺物をはじめとして方形周溝墓群の構成と変遷を考える上で貴重な資料を得た。さらに、平安時代を中心とする時期の遺構は、湖岸周辺における農村景観を考えることができる資料である。津田江湖底遺跡では、明確な遺構は検出できなかったが、湖岸の環境変化の変遷を知り得る重要な資料であり、縄文時代早期から晩期の各時期における多様な縄文土器・石器は、烏丸崎遺跡出土の土器・石器類と共に広範囲な地域間交流を想起させる。</p>							